

佳作

## 弟が生まれて感じたこと

兵庫県 姫路市立高浜小学校三年 大井 琴葉

二年生の時「いのちのじゅぎょう」をうけました。人の「いのち」は、いちばんはじめは目にみえないほど小さいそうです。そのとき、お母さんのおなかに赤ちゃんがいました。こんなに小さい「いのち」が、だんだん大きくなって、人間の形になっていくと聞いて、とてもふしぎな気持ちになったことをおぼえています。そして、どんな「いのち」も大切で、とうとういものなんだ、ということをおぼえてくれました。

きよねん、弟がたんじょうし、わたしの家族が一人ふえました。わたしとハオはなれた弟は、とても小さくて、ふわふわで、はじめて会ったときは今まで一番感動しました。弟をはじめたときは今までは、小さいのにおもたく感じました。足を力いっぱい動かしているすがたに、かわいくてむねがいつ

ぱいになりました。赤ちゃんの名前も、どうしてもわたしがすきな名前にしたくて、わたしが決めました。

わたしが一番うれしかったことは、わたしの顔を見てわらってくれたところです。わたしが学校から帰ると、手と足をバタバタさせて、よろこんでくれました。弟と遊びたくて、しゅく題も後回しになります。「赤ちゃんはなくての仕事」とお父さんに言われても、ないでいたら気になるし、くしゃみをすると「さむいのかな」としんぱいになります。でも、わらってくれると家族全いんがえがおになります。わたしも赤ちゃんのころ、こんな大切にされて、あじょうをそそいでもらったんだな、と思ってうれしくなりました。二年生の三学きに、生活で「せいちょうアルバム」を作りました。生まれたときの名前のゆらいを聞いたり、小さいときのしゃしんをもらいました。お父さん、お母さんからの手紙ももらいました。自分が大切にそだてられていることが分かって、「せいちょうアルバム」はわたしのたからもんです。

わたしが生まれたしゅんかんの動画を見たことがあります。生まれたしゅんかん、お父さんはわらっ

ていて、お母さんはいませんでした。とても大切だったことでした。わたしはわたしだけの「いのち」ではなくて、みんなに大切にしてもらっている「いのち」です。これから、弟とけんかをするころもあると思います。妹やりょう親と言いかいになるころもあります。でも、自分を大切にしてくれている家族と自分を大切にしたいです。

弟の手にわたしの指をのせると、ぎゅつとにぎつてくれます。小さくて、温かくてしあわせな気持ちになります。弟が生まれて、「いのち」の大切さをより強く感じる事ができました。家族とごはんを食べて、学校で友だちといっしょに遊んで、弟をだっこできる。当たり前だけど、「いのち」があるからこそとてもしあわせな毎日を、これからも大切にしていきたいと思います。